

長畝ふるさと通信

【2015年11月号】

■ 冬水(ふゆみず)たんぼ



朱鷺と暮らす郷認証米の「生きものを育む農法」のひとつ、「冬期湛水」が始まりました。「冬期湛水」は冬の間も田んぼに水を張る事によって田んぼに棲む生きものたちが越冬し、さらにこの間トキの餌場となる仕組みです。



佐渡市に申請すると現地確認票が送られてきて、田んぼの進入路にこの票を設置します。あとで市の職員が確認に来るのです。雨水だけで水が貯まる田んぼもあれば、一向に貯まらない田んぼもあるので、右のようにトラクターで轍(わだち)を着けて、水がたまる場所を作ってやるなど工夫をしています。トキは足が短いので水のたっぷり貯まった田んぼへはなかなか降りてきません。また、エサを目で探すのではなく、泥の中に長いくちばしを突っ込んでエサを探す不器用な鳥でもあり、人や車の通行が多い田んぼは餌場として選んでくれません。・・・やっかいな鳥です。

この日は久々のお天気。トラクターの車窓から眺める田んぼの照り返しのまぶしさ、遠くに見える雲の形などを楽しみながら、ゆっくりと運転します。すると反対側の稲刈り以降、なんの手も加えていない(耕してもなく、水も張っていない、轍も当然着けていない)田んぼに8羽ものトキが降りたってエサをついばんでいるではありませんか(カメラは持っていましたが遠くて写りません)。「人の気も知らないでのおんきなモンだ」などと半分ふてくされながらハンドルを握るのでした。



■ 第10回 収穫感謝祭

12月5日、第10回目となる収穫感謝祭が今年も開催されました。前日までは佐渡汽船も2日間欠航するなど大荒れの佐渡でしたが、この日は朝から穏やかな天候に恵まれました。



12時開宴、約70人の老若男女が集い、一斉に乾杯！おかあちゃんたち手作りのごちそうに舌鼓を打ちました。10年続いた「百人鍋」もあつという間に底を突く勢いでした。



手作り惣菜の販売コーナーもいつにも増して充実のラインナップ。今がまさに旬のブリを筆頭に定番のお赤飯やサザエ飯、コロケやおからドーナツ、自慢の白菜キムチ漬けやカレーの煮付けなどが次々と売れていきます。ふるさとの味は常に最強ということでしょうか。

それにしても昼間の酒は何時にも増してテンションを上げるせいか酔いも早い。家路に向かう頃にはすっかり千鳥足。いつまで続けられる事やら…



■ 冬に突入します

今年もあと一ヶ月、佐渡は冬に突入しました。大佐渡の尾根にそびえ立つ佐渡航空自衛隊の通称「ガメラレーダー」。北の防衛の要として風雪に耐えながら任務を遂行しているそうで…何かと物騒な世の中ですがこんなものが活躍しない平和な世界を願うばかりです。

